

2023年6月23日

学校法人三幸学園
仙台リゾート&スポーツ専門学校
校長 佐藤 亨 殿

学校関係者評価委員会
委員長 笠松 淳史

学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 笠松 淳史 (スポーツクラブルネサンス長町店 支配人)
- ② 古川 友裕 (卒業生)
- ③ 宮下 有裕 (株式会社共立メンテナンス 支店長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年6月23日 (会場 仙台リゾート&スポーツ専門学校 203教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022年度 学校法人 三幸学園 仙台リゾート&スポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 寺澤 正典

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 笠松 淳史

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・学校全体の共通目標として「一体化」を掲げ、教職員全体が一体となり、生徒により良い教育提供をしていく事を念頭に日々学校運営に従事した。また教務においては以下の内容の目標・計画を掲げて取り組んだ。

【教務目標】『PRIDE』

【在るべき教職員像】授業、生徒指導、教育内容などを通じて育成した生徒に誇りを持つ事

【在るべき学生像】授業、教育内容を通じて、自分自身、クラス、教職員に誇りを持つ事

【定量目標】

(1) 退学率 4.5%以下(退学者アンケート回答率向上)

＜結果＞6.8%

(2) 精皆勤率全学年年間 65%

＜結果＞年間 55%

(3) クラスアンケート【熱意や愛情を感じられますか】の数値が 3.6 以上の獲得

＜結果＞3.40

(4) 授業アンケートの各数値平均 3.65～3.70 の獲得

＜結果＞全項目が 3.65 以上の数値を獲得

【具体的施策】

① ハイパーQU を 2 回実施後、意図的な面談の設定(6 月と 10 月)

→ 生徒の状況を把握しモチベーションを向上

② 生徒情報管理シートの作成と一元管理

※アルバイト/奨学金/特待生種別/生徒情報/モチベーション等

→ 情報を積み上げて現状把握

③ 保護者への連絡(4 月と 10 月)

→ 連携を取ることで生徒指導に繋げる

- ④皆精勤率を1カ月に1回算出し、生徒個人へ開示
→生徒の状況把握や、生徒へ現状を伝える
- ⑤新任講師に向けた研修の実施(年始に2回)
→キャリアのある講師と遜色ない教育の提供
- ⑥教職員の授業見学を実施し、見学結果をフィードバック
※授業実践ガイドブックを活用
→授業力向上と指導基準の統一
- ⑦クラス運営におけるポイント勉強会の実施
→指導力向上
- ⑧早期(5月又は6月)にクラスイベントの実施
→学校愛、クラス愛の醸成
- ⑨第2回3回全体会議にて各目標と目指す人材育成像に対して振り返りの設定
→現状の把握と教育方針の再認識に伴う更なる教職員の一体化
- ⑩学科会議(スポーツレナー科)の実施
全体会議以外の日時で、クラスの情報共有※統一事項の確認
→生徒情報の共有と指導基準の統一
- ⑪講師への情報共有ツールの確立
Sanko Gateの1Wayでは無く、他ツールによる2Wayのコミュニケーション機会を設定
→生徒情報共有の迅速化

② 学校関係者評価委員会コメント

■ハイパーQUとはどういった物か?(笠松委員)

⇒学校生活における生徒の満足感や意欲、学級集団の状態等を質問紙によって測定するもので、年2回実施している。生徒が回答したアンケート内容によって個人が学校生活満足群や要注意群等、傾向に即して分布される。それを基に生徒面談等に活用している。(大宮さん)

■ハイパーQUを活用した結果、退学率は改善したのか?(宮下委員)

⇒分野的に見ると退学率は高いわけではないが、入学前後でギャップを感じている生徒がいる事は事実。広報活動で伝えている楽しさと入学後の勉強の難しさにギャップを感じ、モチベーションが下がる生徒も多く、改善しているとは言い切れない。(寺澤さん)

□入学前後のギャップを埋めるために良い施策はあるか?(寺澤さん)

⇒入学前に厳しさを伝え過ぎるのは難しいところ。入学前はハードルを下げて募集しているので、入学後に急にギアが上がるように感じてしまう。(宮下委員)

⇒ギアが上がる事でモチベーションが上がり、みんなで「やるぞ」という気持ちにならないのか?(古川委員)

⇒今の生徒はSNSが主な繋がりとなる中、ドライな生徒が多い。(宮下委員)

⇒法人としては通信制高校が増えている事もあり、そういった層からの入学者に対して、フォロー・アプローチを大事に考えている。(寺澤さん)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

業界のトレンドが絶えず変化する中、目標や目指す人材等を踏まえ、生徒のニーズに沿う教材等は何かを更に意識しながら方向付けや生徒へ提供していかなければならない。

② 今後の改善方策

新学期のスタート時に、業界理解や業界人に触れる機会などを設定し、生徒が将来の職業観をイメージ出来るようにしていく(業界説明会や、業界で活躍している卒業生講話など)。

③ 特記事項

入学初期には、先駆けて業界で活躍している人材の講話(動画)の視聴機会を学校行事の中で実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

□日頃それぞれで関わりのある生徒(同世代の学生)の質や雰囲気はこれまでと変化はあるか?(寺澤さん)

⇒ここ4～5年の話であれば、あまり大きな変化は感じられない。(宮下委員)

⇒現在、私の所属している企業で選考中の生徒は複数内定をもらっている方が多く、意欲の高さが感じられる。(古川委員)

⇒今年のスポーツインストラクター科2年生は、1年生の頃から意欲の高い生徒が多く、特待生も多い。(大宮さん)

⇒アルバイトを希望してくる学生(専門学生に限らず)は多いので、しっかり選考した上で採用している分、質という面ではあまり大きな変化は感じられない。(笠松委員)

■特待生、寮奨学生とはどういった生徒が選ばれるのか?(古川委員)

⇒面接試験等を通して、学内外での活動等さまざまな場面で活躍してくれると期待できる生徒を選考し、授業料の一部や寮費の一部を免除している。

寮奨学生は共立メンテナンス様との関係性で成り立っている。(寺澤さん)

■遠方からの入学者が寮に入ることは生徒にとってどういったメリットがあるのか?(古川委員)

⇒寮の中でも人間関係が構築されるので交友関係も広まり、結果として退学者が減少する傾向にある。

寮長・寮母が在中している事もあり、保護者にとっても安心要素が多く入寮するメリットは大きい。(宮下委員)

□生徒へ提供できる授業内容(業界のトレンドに合った物)等、ご意見あれば今後も情報共有いただきたい。(寺澤さん)

(2)学校運営

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

学校の運営方針を浸透する機会は年度初めの会議等で設けているが、法人としての方向性や考え方を浸透する機会は近年も含め設けられていない為、情報発信ツールや会議の場で時間を取る必要がある。

② 今後の改善方策

教職員一同が集まる会議、定期的に行われる職員会議で法人としての考え方の浸透機会を定期的を設定していく。

③ 特記事項

年に2回、法人職員が一同に集う会議があり、そこで学園長及び理事長から事業戦略及び、機能戦略について話を頂く機会がある。

④ 学校関係者評価委員会コメント

■月に一度、全社員研修を実施。代表から理念に関するメッセージを15分程度でいただいている。全社員へ向けてになる分、ディープな話は難しい。その他、マネジメント層へ向けての話を月に一度、30~40分程度でいただき、運営・理念の統一を図っている。

更に支社長以上クラスへは対面で研修・会議を実施している。(古川委員)

■上期(4月)・下期(10月)で全体の会議を実施している他、決算後に経営方針説明会が実施される。また月に一度予算会議が行われている他、寮長向け地区会議や寮母へ向けて年2回衛生面等の会議を実施している。寮長向けの地区会議では、役員会の資料を提示して施設の責任者としての意識向上を図っている。(宮下委員)

■月に一度、動画とテキストで社長から全スタッフへ向けたメッセージが配信される。その他、決算後にもメッセージの配信あり。(笠松委員)

□各社経営陣の意向に触れる機会が多い印象を受けた。経営陣の考え方に触れる機会を通して経営方針や理念の統一を図ることができている印象。学校では全体会議を年3回、学園としては年2回実施している。学校内で先生方と触れ合う機会が月一回あっても良いかもしれないと感じた。

また学科毎等小組織の運用も工夫したい。(寺澤さん)

⇒自身の寮長向け会議を踏まえ、講師にも責任ある立場だと理解させる機会が必要と感じる。

帰属意識を持たせる事が必要。(宮下委員)

(3)教育活動

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

2023年度よりスポーツITトレーナー科が開設された。講師・生徒ともにICTを使用した授業内容の定着と1年後の就職先が課題となっている。就職を含めた企業連携、業界理解が必要となる。また、スポーツビジネス科の卒業生アンケートの向上については引き続き対策が必要となっている。

② 今後の改善方策

授業カリキュラムにおいては、学んだ事をアウトプット出来る機会として現場実習や企業と関わる機会を増加させる事、授業講師においては、改めて業界関係者の人材開拓を実施していく。また、キャリア支援においては、生徒の希望ニーズを把握し、ニーズに沿う求人を学校が確保していきたい。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

■実習生の受け入れについては、昨年度までは学校側から遠慮されている印象があったが、今年は仙台大学からもインターン生受け入れの依頼があった。昨年と比較すると増えてきそうな印象。(笠松委員)

■大学・専門学校からの実習生受け入れの依頼が増えている印象。今年が一番多く、大学生の受け入れ依頼がこれまでより増えている。(古川委員)

□実習内容の変化はあるか?(寺澤さん)

⇒コロナ禍前後での実習内容に大きな変化はない。そもそも実習生が携われる内容は限られている。

(笠松委員・古川委員)

□学科によっては実習が任意になっているので実習に参加しない生徒も増えている。実習の重要性が伝えきれていない事が課題。何かアドバイスをいただけないか?(寺澤さん)

⇒実習は学びが多いので必ず行った方が良い(古川委員)

⇒コロナ禍の兼ね合いで企業様側の受け入れが難しくなったこともあり任意にした背景があるが、生徒側が積極的に実習に出たいと考えていないのも事実である。(寺澤さん)

(4)学修成果

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

就職率は生徒一人に対して複数担当制を敷くなどの手厚いフォローが結果として結びついてきているが、卒業後の定着率や状況把握などに課題がある。

② 今後の改善方策

卒業後の定着率を上げるために企業や卒業生による業界理解セミナーなど、キャリア形成のための学ぶ機会を設ける。また、昨年度より卒業生に対して連絡ツール(LINEグループ)を使用し、状況把握を図るツールとしても活用しているが、引き続き継続していく。

③ 特記事項

現在、三幸学園の同窓会組織において在り方や考え方の見直しが図られており、今後卒業生を資源とした具体的な取り組みを推進していく予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

■卒業生と繋がる仕組みづくりとして SankoLink から定期的に何か案内を発信してはどうか？

卒業後 3~4 年目くらいの卒業生へ向けて、再就職やキャリアアップの企業説明会を実施する等、卒業後も学校に気軽に来校出来る仕組みを作ると繋がりがやすい。(古川委員)

■学校と関わっているとメリットがある、プラスの意見がもらえると感じてもらう事が重要。(笠松委員)

■情報の配信をするには同窓会組織を運営する部署・組織が必要になる。(宮下委員)

⇒同窓会を運営する組織はあるので、同窓会費の活用や人材の供給が大事になってくる。(寺澤さん)

■卒業生がどの程度現場に定着しているのか？スポーツ現場で働いている方に対象者を絞り、同窓会を実施してはどうか？有意義な意見交換ができそう。(笠松委員)

■リーフラス株式会社でも OB 会を設立している。OB 会への加入特典としてアルバイト採用や時給の優遇がある。また部活動指導のスタッフとして採用優遇もある。入会時に卒業後も連絡する事を伝えている。同窓会も同じように、卒業後も繋がりをもちたいと思える特典を設けてはどうか？(古川委員)。

■卒業後 1~3 年目くらいまでであれば同級生も参加する同窓会なら参加したいが、卒業生全体等の対象範囲が広いと参加意欲は減る。モチベーションがあまり高くない層へのアプローチ(特典)も検討した方が良い。(古川委員)

■例えば卒業後も学校のトレーニングルームを無料で使用可能とし、そこでトレーナー業利用も可能とするとフリーで活動している卒業生にとってはかなりメリットが大きい。卒業後も学校で実施する行事等に参加する事が当たり前になれば、関係性は維持できる。(笠松委員)

■卒業生へ向けた学びの機会の提供があると卒業生としては嬉しい。卒業後 1~3 年目くらいまでを囲えると長い関係が構築できるのではないかな？

卒業後に学校に顔を出したいかどうかは担任の先生がいるかが大きい。知っている教員がいないと行きづらくなる。逆に学びたい内容のセミナー(四半期に 1 回)開催等があれば担任も関係なく来やすくなる。

例えば、卒業生でなくても 2 名まで同伴可能等があると更に参加しやすい。セミナーの内容としては社会に出てから困ること(ビジネスマナー講座等)があると嬉しい。本格的なセミナーでなく、授業をもう一度実施してもらえただけでも繋がるきっかけになる。(古川委員)

(5)学生支援

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

2022年度、同窓会を実施したものの参加者が少なかった。今年度は、参加しやすい曜日や時間帯などを卒業生へヒアリングしていく必要がある。

② 今後の改善方策

卒業生が出席可能な同窓会日程を候補として設け、事前に卒業生へ参加可否を確認し、出席率を上げていくと共に、卒業生が同窓会に出席するメリット(学びの機会や講師との交流)を検討していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

■実習に対する支援をもっと実施した方が良い。実習は生徒にとっても必ず良い経験になるもので、採用側としても経験がある方が採用しやすい。(古川委員)

■実習の中でできることは限られているので、アルバイト経験をさせた方が良い。

例えば学校側から入学直前の新入生へアルバイト求人斡旋を行い、学びを活かせる環境づくりを行う。それが入学した特権にもなれば付加価値にも繋がる。(笠松委員)

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

校舎の老朽化に伴い、施設での経年劣化の備品等が発生しており、大規模な現地調査が必要になってきている。

② 今後の改善方策

2023 年度中に、校舎の大規模な現地調査を行った上、適正な教育環境となるよう適宜、修繕等を実施していく。

③ 特記事項

2023 年度において海外研修(アメリカ)が開催される予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

■海外研修に卒業生も参加権利を付与し、同窓会費から一部補助があれば卒業生との繋がりを密にすることができそう。全員に対してではなく、年間行事参加者等から抽選で選ぶ等対象者を限定してはどうか。

(古川委員)

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

学校の周知を目的とした SNS における学校露出機会を増やし、学校認知を更に向上させる必要がある。

② 今後の改善方策

適材適所により、若手人材における SNS の運用を積極推進していく事と、見る視点に立った、情報更新を実施していく。

③ 特記事項

学園で設置されている地域広報室や、各高校と連携を取りながら、高校生の進路活動サポートを実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018年度～2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度～2027年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

関係法令にて義務化されている自己評価とともに、評価結果の公開を継続していかなければならない

② 今後の改善方策

自己評価ならびに学校関係者評価の結果からの運営改善とともに公開を進める。

③ 特記事項

産学連携による教育の充実を図っている中で、職業実践専門課程への対応を視野に入れて法令を遵守する。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

産官学連携の内、官にあたる行政や地方自治体との連携による社会・地域貢献、課外活動機会を模索していきたい。

② 今後の改善方策

学校の所在区でもある宮城野区様より、区役所前の広場での縁日イベントの案内を頂いている為、学生の活動先の一つとして確立していきたい。

③ 特記事項

2022 年度までの間で、主だった活動は特に無。

④ 学校関係者評価委員会コメント

■行政との繋がりにおいて、場所を貸すという観点であれば近くに地域包括ケアセンターがあるので、施設の貸し出しを促してはどうか？地域包括センターは健康で元気に長生きできる身体づくりに取り組む組織。学校の目指す人材像と合致している。(笠松委員)

■町内会との繋がりの為に祭りに参加、お神輿を担ぐのはどうか？町内会によっては神輿の担ぎ手が減っている。生徒の若い力は町内会からも喜ばれる。

その他、プロ選手の地域貢献(子どものサッカー教室)サポートの依頼が来ているので、ボランティアとして生徒を募集したい。(古川委員)

(11)国際交流

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

法人の留学生サポートセンターとも連携を図り、万全な受入体制を維持していきたい。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

社会情勢や業界ニーズに沿いながらも法人本来のあるべき教育の姿に戻すべく取り組んだ 1 年であった。また、年度末における学校運営の評価でもある卒業生アンケートの数値は、2021 年度以前と比較し、高い数値結果となった。今後も絶えず変化する業界ニーズを捉え、多種多様な入学者を受け入れ、学習者本位の環境設定、教職員の思考の変革や教育技術の向上などを念頭に学校運営を進めていきたい。